

『交通指導のおじさんに感謝』

いつものように登校していた時のことです。信号が青になったので友達と一緒に横断歩道を渡っていると、交差点を左折しようとした車が進んできて、ぶつかりそうになりました。

その時に、いつも横断歩道の脇で交通指導してくれているおじさんが気付きました。「待ってください！」と運転手に叫びながら私たちと車の間にとっさに入り、車を止めてくれました。

もし、おじさんがいなかったらひかれていたかもしれません。「ありがとうございます」と心から感謝しました。黄色い旗を持ったおじさんは毎朝早くから通学路に立って交通指導をし、「おはよう」とあいさつをしてくれます。

その声を聞くだけで心が晴れます。登校していても気分が悪い日もあります。でも、おじさんがちょっと話しかけてくれるだけで、「今日も頑張ろう」思えます。おじさんがいることは当たり前のように感じていますが、その「当たり前」に感謝しています。

1年生 T・M (2024. 2. 29 毎日新聞)